教育の情報化の推進に向けた１人１台端末活用の在り方
－ICT 活用スキルの分析を生かした校内研修を通して－

福島県教育センター　情報教育チーム　指導主事　高橋　　徹

１　研究の趣旨

「第７次福島県総合教育計画」では、ICT 活用などによる「学びの変革」を本県教育の柱の一つとして位置付け、令和 12 年度までに「児童生徒がコンピュータ等の ICT を活用する学習活動をほぼ毎日行うこと」、「すべての教員が授業で ICT を活用して指導できること」を目標としている。

しかし、「令和５年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）」の本県の結果では、１人１台端末などの ICT 機器を授業で毎日活用していると回答した割合は小学校 52.6%、中学校 57.9%であった。また、「令和４年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査（文部科学省）」の結果では、教員の ICT 活用指導力の状況について、本県は、五つの調査項目すべてにおいて平均以下であり、都道府県別の順位も 40 番台であった。調査の中では、「教員が ICT 機器の使い方を学ぶ研修を受講するほど ICT 機器の使用頻度が高い傾向にある」と記されているが、研修を受講した本県教員の割合は 63.2%（都道府県別順位 44 位）であった。さらに、「福島県の情報教育の実態等に関する調査（福島県教育センター）」の結果においても、校内研修を実施しなかった学校は、小学校 41 校（10.9%）、中学校 32 校（15.8%）、校内研修を年に３回以上実施した割合は、小学校 41.7%、中学校 23.5%であった。特に、教科等の指導における ICT の活用場面の調査では、「思考を深める学習」、「表現・制作」、「協働での意見整理」、「協働制作」の場面で使用されている割合が低い結果になり、校内研修の在り方や教員の ICT 活用指導力等に課題があることが明らかになった。

本チームでは、昨年度までの２年間で、校内体制づくり、校内研修の工夫、日常使いの推進や授業での１人１台端末の効果的な活用に係る研究を行ってきた。そのことにより、前向きに活用しようとする教員の姿や若手とベテランが協働的に学び合う姿が見られるようになった。しかし、その一方で、ICT 活用スキルの個人差により、ICT の活用場面に偏りがあることが分かった。

そこで、ICT 活用スキルの調査結果から現状を分析し、実態やニーズに合った校内研修の活性化に向けた取組により、教員・児童生徒の ICT 活用スキルの向上に繋げることが必要であると考え、本主題、副主題を設定し、研究を進めることにした。

２　研究の概要

１人１台端末を活用し児童生徒の資質・能力を一層確実に育成することを目的に、以下の点に焦点を当て、調査研究を行った。

(1)「ICT 活用スキルに関する調査」の実施
(2)「ICT 活用スキルの実態」を踏まえた校内研修の展開と授業構想および検証
(3) 校内研修の活性化に向けた ICT 活用スキル向上の取組事例の発信
(4)「福島県の情報教育等の実態等に関する調査」の実施

３　成果と今後の課題

(1) 研究の成果

○　ICT 活用スキルに関する実態調査の結果から、小学校高学年と中学生の ICT 活用スキルがどの項目においても高く、これまでの取組が一定の効果を挙げていることが分かった。

○　ICT 推進チームが中心となって、ICT 活用スキルの実態に合わせた校内研修を主体的に運営、展開をしたことで、学校全体として前向きに活用しようとする環境が整った。

○　授業だけでなく、日常的な利活用についてもスキルアップできた。

(2) 今後の課題

○　ICT 活用スキルの実態の把握、校内研修の計画立案や研修内容等の検討、研修の実施、授業等での実践という PDCA サイクルの好循環による校内研修の更なる活性化と推進チームの関わりについて、各学校の実態に応じて検討する必要がある。

○　各教科等の授業における端末の利活用については、教材研究や授業構想の基に検討する必要があった。教科の特質に応じた支援を丁寧に行うことができればよかった。